

令和4年度 南九州市当初予算

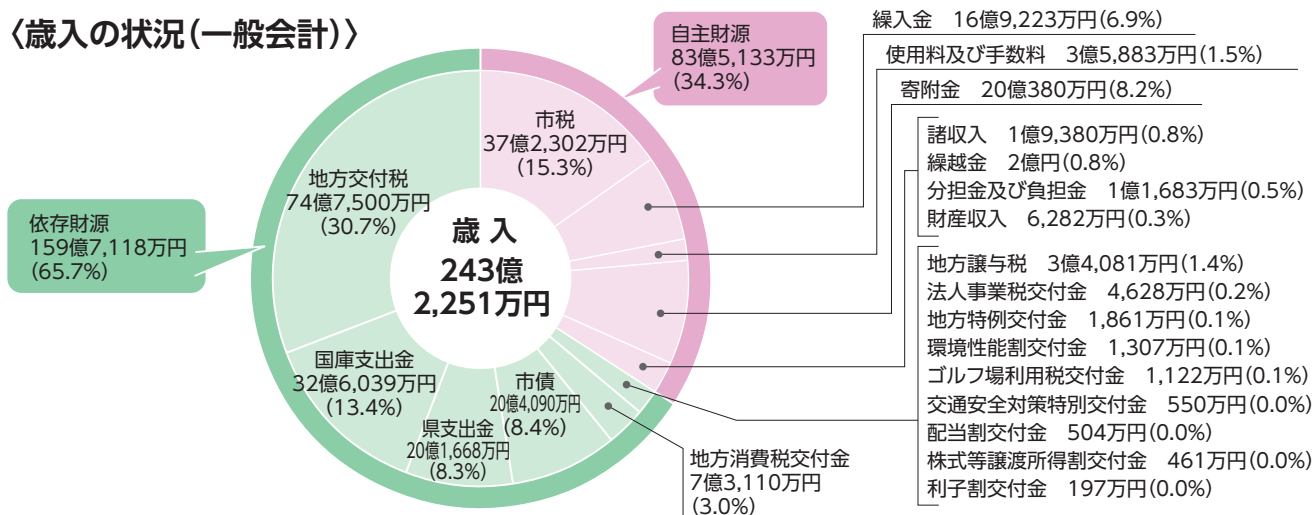
一般会計 243億2,250万9千円 (対前年度比 +4.6%)
特別・企業会計 133億5,058万4千円 (対前年度比 +2.0%)

南九州市の令和4年度当初予算は、行政改革大綱、集中改革プランおよび中期財政計画(令和3年度策定)に基づき、長期的な視点に立った財政運営に努めるとともに、第二次南九州市総合計画の基本計画に位置付けられた諸施策を確実に推進するため、効率的かつ重点的な予算編成を行いました。特に令和4年度は「子育て支援の充実」、「教育環境の充実」や「新しい観光形態への取り組み」など、コロナ禍においても南九州市の魅力を発信し、市民が住んでいて良かったと実感できるような施策に予算の重点的な配分を行いました。

一般会計の総額は、前年度比4.6%、10億7,550万9千円増の243億2,250万9千円となりました。また、一般会計と特別会計および企業会計を合わせた予算総額は、376億7,309万3千円で、前年度比3.7%、13億3,565万8千円の増額となりました。

令和4年度当初予算の歳入歳出状況

〈歳入の状況(一般会計)〉



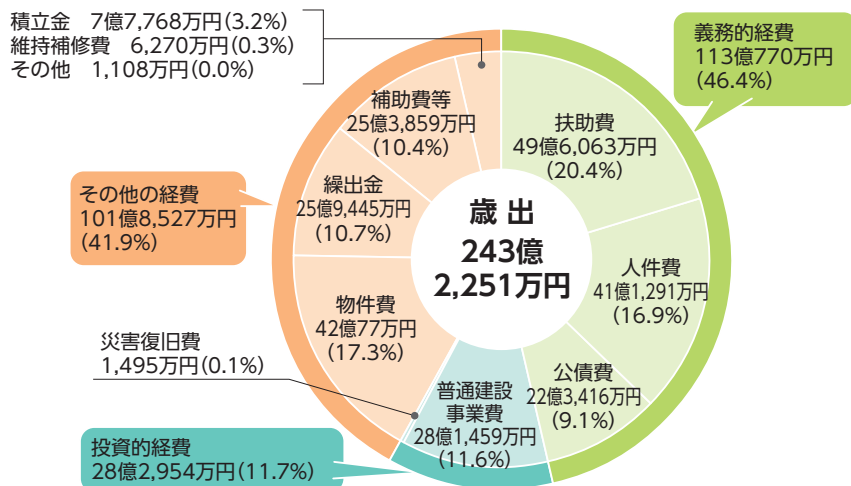
歳入は、国や県から交付されるお金である「依存財源」と呼ばれるものが総額の65.7%を占めています。依存財源のうち、最も多いものは、地方自治体が一定水準の行政サービスを保つために国から交付される地方交付税で、全体の30.7%を占めており、以下、国庫支出金、市債(借金)、県支出金の順となっています。

一方、市が自ら賄えるお金である「自主財源」のうち、最も多いものは、市民の皆さんに納めていただく市税で、全体の15.3%を占めています。寄附金の主なものはふるさと寄附金によるもので、前年度に対して0.4ポイントの減となっています。

〈性質別歳出の状況(一般会計)〉

歳出を性質別に見ると、扶助費、人件費および市債(借金)の償還を行う公債費で「義務的経費」と呼ばれるものの割合が最も多く、全体の46.4%を占めています。公債費が減となったことで、前年度に対し1.5ポイントの減となりました。

道路整備や基盤整備など「投資的経費」と呼ばれる経費は全体の11.7%で、前年度に対し1.2ポイントの増となりました。これは、新庁舎建設事業費などが増となったことによるものです。委託料や備品購入費などの物件費については、前年度に対し0.5ポイントの減で、全体の17.3%を占めています。



〈目的別歳出の状況（一般会計）〉

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度
民 生 費	77億5,279万円 (31.9%)	78億1,394万円 (33.6%)
総 務 費	43億9,668万円 (18.1%)	39億4,836万円 (17.0%)
衛 生 費	22億4,815万円 (9.2%)	20億3,738万円 (8.8%)
公 債 費	22億3,416万円 (9.2%)	22億9,773万円 (9.9%)
教 育 費	21億630万円 (8.6%)	17億2,241万円 (7.4%)
土 木 費	16億819万円 (6.6%)	15億643万円 (6.5%)
農林水産業費	15億5,727万円 (6.4%)	17億2,014万円 (7.4%)
消 防 費	11億4,116万円 (4.7%)	11億4,114万円 (4.9%)
商 工 費	3億1,182万円 (1.3%)	1億8,970万円 (0.8%)
議 会 費	1億6,316万円 (0.7%)	1億6,180万円 (0.7%)
諸 支 出 金	7億7,788万円 (3.2%)	6億9,189万円 (3.0%)
予 備 費	1,000万円 (0.0%)	1,000万円 (0.0%)
災 害 復 旧 費	1,495万円 (0.1%)	608万円 (0.0%)

歳出を目的別に見ると、最も大きな割合を占めるのが、市民の皆さんが安心して暮らすための福祉の充実などに使われる民生費です。前年度に対し1.7ポイントの減で、全体の31.9%を占めています。

次に多いのは総務費で全体の18.1%を占め、前年度に対し1.1ポイントの増となりました。新庁舎建設事業費などの増によるものです。

以下は衛生費、公債費、教育費、土木費、農林水産業費、消防費の順となっています。

会計別の当初予算額

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	比 較	
			増減額	増減率
一般会計	243億2,250万9千円	232億4,700万円	10億7,550万9千円	4.6%
特別会計	118億7,210万円	116億9,660万円	1億7,550万円	1.5%
国民健康保険事業特別会計	56億9,700万円	56億7,700万円	2,000万円	0.4%
後期高齢者医療特別会計	6億4,670万円	5億9,920万円	4,750万円	7.9%
介護保険事業特別会計	55億2,840万円	54億2,040万円	1億800万円	2.0%
企業会計	14億7,848万4千円	13億9,383万5千円	8,464万9千円	6.1%
水道事業会計	11億3,786万4千円	10億3,743万3千円	1億43万1千円	9.7%
公共下水道事業会計	2億2,887万4千円	2億3,409万1千円	△521万7千円	△2.2%
農業集落排水事業会計	1億1,174万6千円	1億2,231万1千円	△1,056万5千円	△8.6%
合 計	376億7,309万3千円	363億3,743万5千円	13億3,565万8千円	3.7%

令和 4 年度当初予算を市民 1 人当たりに換算すると・・・

市民1人当たりが負担する市税

総額 110,200円

※金額は、令和4年2月28日現在の住基人口(33,335人)で計算しています。
(鉱産税、国有資産等所在市町村交付金は除く)

市民1人当たりに使われるお金

総額 729,639円

※金額は、令和4年2月28日現在の住基人口(33,335人)で計算しています。



固定資産税
65,217円



市民税
34,070円



民生費
232,572円



総務費
131,894円



衛生費
67,441円



公債費
67,022円



市たばこ税
6,000円



軽自動車税
4,913円



教育費
63,186円



土木費
48,243円



農林水産業費
46,716円



消防費
34,233円



その他
38,332円

令和4年度

当初予算の特徴

南九州市では、将来都市像である「人と自然が共生する 活気あふれる 住みよいまち 南九州市」を目標として掲げ、南九州市総合計画に基づきまちづくりを進めています。ここでは、令和4年度の当初予算の特徴について紹介します。

子育て支援の充実

1 子育てしやすいまちづくりプロジェクト事業

川辺地域の第1児童館に子育て支援拠点を整備し、併せてワーク・ライフ・バランスの実現と地域の子育て拠点のネットワーク化を図り、子育て支援体制の強化を目指します。

2 子ども医療費助成事業

助成対象者を高校卒業までの全ての子どもに拡充し、疾病の早期発見、早期治療の促進を図ります。



教育環境の充実

1 小・中学校ICT推進事業【3197万円】

プログラミング教材やオンライン教材、授業支援ク

ラウドなどICT関連の機器を最大限に生かし、学力の向上とともに児童生徒の情報活用能力の向上を図ります。

2 市内高等学校活性化事業 【813万円】

市内3つの高等学校の活性化を図るため、各校活性化協議会の活動費を補助するとともに、在校生が受検する各種検定の受検料の一部を助成することで、地域の活性化と人材育成を目指します。

市の魅力発信

1 地域ブランディング事業 【654万円】

南九州市の魅力を紹介する統一デザイングッズの制作や、地域ブランド化を図るため、プロのカメラマンによる市内撮影ポイント案内ブックを制作します。



2 名物創生事業 【800万円】

南九州市でしか食べることのできない食のメニューや土産品など、南九州市ならではの特産品を創り出し、商店街を中心とした地域の活性化と、新たな観光の流れを生み出す取り組みを行います。

産業の振興

1 甘藷重要病害虫等総合対策事業

【1851万円】

かんしょ 甘藷重要病害虫等対策として健全苗の安定供給と実証農地設置により農業経営の安定と産地維持に努めます。

観光の振興

1 体験プラットフォーム造成事業

【2076万円】

着地型体験コンテンツの創出などにより体験型観光を推進し、滞在時間および観光消費額の拡大を図ります。

2 岩屋公園アウトドア事業 【6803万円】

岩屋公園周辺にアドベンチャー遊具などを整備し、滞在時間および観光消費額の拡大を図ります。

環境保全対策の推進

1 環境保全公害対策事業

【989万円】

地球温暖化の防止に向け、地球温暖化防止実行計画を策定し、市民・事業者・行政が省エネルギーなどの対策に取り組むことで温室効果ガス排出量削減を目指します。

効率的な行政運営の推進

1 新庁舎建設事業

【2億8230万円】

新庁舎建設に向け、基本・実施設計業務を中心に、執務室などのオフィス環境や電算システムの環境整備などの関連事業の取りまとめや管理を行います。

2 行政DX推進事業

【582万円】

CIO（情報統括役員）補佐官および行政デジタル化推進員を民間事業者から採用し、本市行政DXの推進を図ります。